

令和3年7月20日(火)



つつじが丘小学校  
学校だより

つつじ

昭島市立つつじが丘小学校長 上田 祥市



「好きなことが原動力」

校長 上田 祥市

ようやく梅雨明けと思ったら、一気に猛暑の日々。身体が十分に対応できない中で、夏休みが始まります。新型コロナ感染防止と熱中症に十分気をつけながら、元気に過ごしてほしいと思います。

さて、先日アメリカ大リーグでオールスターゲームが行われ、大谷翔平選手が史上初の二刀流出場を果たし、大きな話題となりました。恵まれた身体に類い稀な運動能力で、現在投手として4勝、ホームランは34本。その活躍に、アメリカでも日本でも熱狂が続いています。しかし、それは彼のプレーだけによるものではありません。ファンに対する真摯な対応、グラウンドに落ちているゴミをさっと拾う実践力、折れたバットをバッターに届けるマナーある行動。どれもが人として周りを大切にすることが自然にできている、大谷選手の人間性の素晴らしさを感じさせます。こうした人間性はどのように身に付けたのか、小学生時代はどのような子供だったのか、気になります。

日本ハムファイターズ時代コーチだった黒木知宏さんがインタビューで、「大谷選手は野球が大好き。野球がうまくなるためにどうすればよいかをいつも考えている根っからの野球小僧。」という話をしています。好きなことがあるということが、原動力ということです。小学生の時は、野球だけでなく水泳やバドミントンや様々な運動をしていたようですが、その中で野球を選んだことも、楽しさを感じ、好きだという気持ちに正直だったからだと思います。そして他のスポーツ体験も、身体の活かし方として野球の中に生きているのでしょう。

小学校時代の大谷選手は、良くも悪くも人の意見に左右されないマイペースな子だったと自分で語っています。「どうしたら速く投げられるか」「どうしたら遠くまで打てるか」自分の好きなことだから、自分で考え、自分で決定していったのだと思います。高校時代の恩師との出会いや経験も大きかったのでしょう。その時代に作った目標達成シートに、野球のことだけでなく、「人間性」と「運」の項目を起こしています。ただ、野球がうまい選手ではなく、人としても愛される、信頼される人になりたいという気持ちが分かります。「なりたい自分」をしっかりイメージし、一つ一つ実践しているからこそ今の姿があるのですね。

もうすぐ東京オリンピック・パラリンピックが始まります。出場するアスリートは皆、大谷選手と同じように自分の大好きなスポーツを、目標を掲げ努力して自分の力を高めていった人たちです。結果だけではなく、アスリート一人一人のこれまでの努力や、本番の試合に向かう気持ちも想像しながら観戦し、応援したいと思います。

スポーツ選手だけではなく、身近な周りの人たちにも、自分の目標に向かって日々努力している人たちがいます。自分が好きなことが、自分の心を動かす原動力。この夏、そんな自分が好きなことを見付かるとよいですね。では、よい夏休みをお過ごしください。